

# 翻訳業 20250 社

同志社大学社会学研究科  
藤本研究室  
郭 文静

本調査では、翻訳業におけるデジタルツール（AI 翻訳や CAT ツール）の導入が翻訳作業の効率化やそれに伴う課題、翻訳者の今後の働き方について聞き取りを行った。まず、CAT ツールを活用することで、用語の統一や過去訳の再利用、数字・表記揺れのミス削減が簡単となり、従来ベタ打ちで行っていた翻訳作業が効率化されている。これにより、翻訳者が従来費やしていた確認作業の負担が軽減され、必要な労力は以前の約 7 割までに削減できる。特に、特許翻訳のように類似文書が多数存在する分野では、特定の単語を含むセグメントを横断的に抽出・修正できる CAT ツールの機能は、翻訳作業の効率化にも大きな効果を発揮している。

一方で、AI 翻訳の普及による現れたポストエディット業務（AI に翻訳させてものを人間がチェックし、修正する作業、以下 PE と呼ぶ）には別の負担がある。翻訳作業で最も労力をかける部分は原文を正確に理解することであるが、PE では「原文理解+AI の訳文との照合」が必要となる負担は人力翻訳の 2 倍となる。AI 精度が向上したとしても、内容が複雑な文書では PE の負担は大きく、かつ低単価でスキルの低い新人しか受けられない市場になる。また、過去には低品質の翻訳エンジンに訳された文書の PE で全文を書き直すケースもあり、翻訳者にとって「地獄」のような状況が存在していた。

現在の翻訳業界では、人間翻訳者の価値を理解し、適正な報酬を支払う顧客も依然として存在するものの、多くの翻訳会社は低単価で業務を発注しており、その環境では生活を維持できず廃業する翻訳者もいる。また、AI 翻訳の普及により、翻訳の需要は多様化し、クライアント層も翻訳者層も広がっている。従来は高い報酬を払って「本当に必要な翻訳」だけが専門の翻訳者に依頼されていたが、機械翻訳の登場により、「専門家に頼むほどではないが、翻訳は必要である」というライトな翻訳ニーズも発生している。このように、翻訳の品質要求は二極化しており、AI で十分な案件から熟練の翻訳者でしか対応できない案件まで幅広い需要が同時に存在している。しかし、人力翻訳の業務が縮小しており、質の高い案件を獲得することはますます難しくなっている。エージェント依存の翻訳者は低単価に巻き込まれやすく、生活をかけて働く翻訳者は自ら優良顧客を開拓する必要がある。したがって、AI 翻訳が普及する中でも、適切な単価を支払う顧客を獲得できるかどうかは翻訳者の生存戦略となっている。



\*イメージイラストは AI で生成